



第1回新旧支部三役合同会議

兵教組は、3月27日～28日の2日間、ラッセホールで「2014年度新旧支部三役合同会議」を開催した。
当面する具体的なとりくみについて、質疑・応答、討論がおこなわれ、新年度からのとりくみを意思統一した。

県内各地で兵教組運動の前進にむけたとりくみを！

会議の冒頭、泉雄一郎執行委員長はいささで、年度当初のとりくみの討議の素材として、①初任者研修のとりくみ、②教育文化・社会貢献事業の充実・発展、財政基盤確立、③組織の強化・拡大、④政策・制度要求のとりくみを取り上げた。

新採用教職員の加入促進については、「運動の基盤は組織力であり、財政力である」と述べた上で、「加入促進の原点は4月1日着任早々のとりくみである」とし、14年度のアクションプランを完遂するよう各支部にもとめた。

講演
「憲法・『子どもの権利条約』の理念の具体化をめざして」

関本克良さん
国際人権法政策研究所事務局長・天理大学講師の関本克良さんが講演をおこなった。

関本さんは、「外国籍の子どもは、義務教育の権利保障のとりくみを紹介した。水岡参議院議員を通じて、質問もしてもらっているが、国際人権法を活用するとりくみがある。

日本政府が批准している「子どもの権利条約」をはじめとする人権条約は、概ね5年に1度、国内の人権状況を報告書にまとめ、国連の条約機関で審査を受ける。政府報告書だけでは情報が不十分のため、NGO等が情報提供し、審査委員との公式ミーティングも開

昨年4月、ジュネーブで開催された社会権規約委員会に情報提供することにも、11年末時点で、日本に外国籍児童・生徒は約12万人いるが、約6万4千人しか義務教育に就学していない状況を現地で報告した。これを機会に、委員会は日本政府への懸念事項及び勧告に、「すべての子どもに対する義務教育が行われているか状況を監視するよう要求する」とした。また今年3月、文科大臣あてに提言も提出した。

条約機関が示す法的判断や勧告は、政府としても尊重しなければならぬ。対政府交渉に活用できる。情報を提供することにより、強い勧告に導くため、7月には自由権規約委員会に参加する予定だ。

締めくくりに関本さんは、「時間はかかるが、このようなとりくみを通して今後も兵教組の皆さんの力になりたい」と述べた。

14年度 兵教組本部執行体制がスタート

森戸 卓也
書記次長
総務部長
(豊岡支部)

川原 芳和
書記長
(芦屋支部)

池田 啓子
副委員長
財政・広報部長
(三田支部)

泉 雄一郎
執行委員長
(伊丹支部)

松山 大介
法政部長
(神戸支部)

釜口 清江
女性・生活・情報管理部長
(神戸支部)

美安 周平
組織部長
(姫路支部)

三上 雅康
青年・教財部長
(美方支部)

小谷 卓也
賛助部長
(赤相支部)

山中 浩路
教文部長
(多西支部)

兵庫教育文化研究所

福岡 弘美
教育文化研究所
副所長
(三美支部)

神田 英幸
教育文化研究所
副所長
(西宮支部)

大野 圭一
教育文化研究所
事務局次長
(多紀支部)

杉浦 光生
教育文化研究所
事務局長
(津支支部)

「新しい仲間と力強い組合をつくりたい」
支部・専門部代表決意表明
2日目には、各支部・専門部代表による決意表明がおこなわれた。
4月当初の新規採用教職員を含めた加入促進や、次の県教研成功にむけたとりくみに全力をあげることに決意が述べられた。



新旧支部三役の「団結がんばろう」で会話は締めくくられた。

レストラン リビエラ

ステーキハウス ルーアン

※営業時間は
11:00～14:00
17:00～21:00(LO.20:00)

※下記コースメニュー以外に、通常コースもあります。

Aコース 要予約

(2日前までにご予約下さい)

¥6,000 (税込)

- ・食事前の軽い前菜
- ・サラダメランジェ
- ・海老フライ
- ・牛フィレ肉の鉄板焼(150g)
- ・ガーリックトースト
- ・焼き野菜盛り合わせ
- ・御飯又はパスタ
- ・味噌汁
- ・香の物
- ・本日のシャーベット
- ・コーヒー又は紅茶

Bコース 要予約

(2日前までにご予約下さい)

¥8,000 (税込)

- ・食事前の軽い前菜
- ・サラダメランジェ
- ・海鮮2種
- ・海老フライ
- ・丹波産地鶏の鉄板焼
- ・和牛肉の鉄板焼(100g)
- ・焼き野菜盛り合わせ
- ・ガーリックライス
- ・味噌汁
- ・香の物
- ・本日のシャーベット
- ・コーヒー又は紅茶

ルーアンランチ

¥2,000 (税込) ¥3,500 (税込)

- ・小鉢
- ・サラダ
- ・牛ロースステーキ(120g)
- ・御飯
- ・味噌汁
- ・香の物
- ・コーヒー
- ・前菜
- ・サラダメランジェ
- ・牛ロースステーキ(150g)
- ・海老とホタテの鉄板焼
- ・御飯
- ・味噌汁
- ・香の物
- ・シャーベット
- ・コーヒー

レストランの味覚フェスタ

各お一人様 ¥2,100 (税込)

※記載メニューは食材の入荷状況により、変更場合がございます。

2014年4月1日(火)～2014年6月30日(月)

【ランチ】11:00～14:00 【ディナー】17:00～21:00

日・祝の営業は18:00までとなります。但し、ご予約の際は事前にお問い合わせください。

和会席

- 【前菜】桜豆腐、桜花、三つ葉、美味出し
- 【造り】鯛、鮪、あしらえ色々
- 【炊き合わせ】筍八方煮(小芋、桜人參、蕨信田巻)
- 【焼き物】鰯の柚庵焼(初神)
- 【揚げ物】小鯛みじんこ揚げ(青唐、塩)
- 【酢の物】天子南蛮揚げ(レモン、若布、玉葱、焼葱)
- 【御飯】変わり御飯、香の物
- 【留碗】白魚と若布のお吸い物
- 【水果子】オレンジ

洋コース

- 【オードブル】鴨のバストラミとスモークサーモンのチーズ巻
- 白身肴のエスカベッシュ
- 【スープ】本日のスープ
- 【肉料理】牛ロースステーキデミタース
- 【サラダ】サラダメランジェ
- 【デザート】プチケーキとフルーツ
- パン又はライス
- コーヒー

ご予約・お問合せは 078-291-1311

Lasse Hall

078-291-1117 (代表)
FAX.078-291-0333

〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-8

http://www.lassehall.com



オープニングでは、集会に参加した子ども・保護者、教職員等約850人が一緒に歌った。



壇上で表彰を待つ子どもたち

★今号では、入選した詩や絵の一部を紹介する。また、今後教育ひょうごやさまざまな発刊物に、子どもたちの作品を掲載していく。



『ひょうご2013 こどもの詩と絵 第34集』

表彰式・発刊記念集会

3月2日(日)、ラッセホールで『こどもの詩と絵 第34集』表彰式・発刊記念集会が開催された。この事業には、教育文化・社会貢献事業協賛金が活用されている。

オープニングでは、音楽教育部の山内美千代さん(三田・高平小)と大林万寿美さん(佐用・上津中)の指導により、「たんぼ」等を子どもたちとともに歌った。

入選者全員の名前を読み上げて表彰した後、代表して18人が詩の朗読や絵の説明をおこなった。

この冊子は、子どもたちが普段の生活や体験のなかから自分がみたこと、感じたこと、考えたことなどを「詩や絵」としておして表現した作品集で、国際児童年の1979年から始めて34集目になる。応募は、詩726編、絵1,706点。その中から選考された詩129編、絵254点が掲載されている。子どもたちの素朴で生き生きとした作品は、私たちにほのぼのとしたあたたかさを与えてくれる。この本が、学校や家庭で読まれ、語られ、人々に元氣や癒し、励ましを与えるものとなることを期待する。



「みんなでほしを見るよ」
神戸市下畑小学校 一年 長谷川 煌生

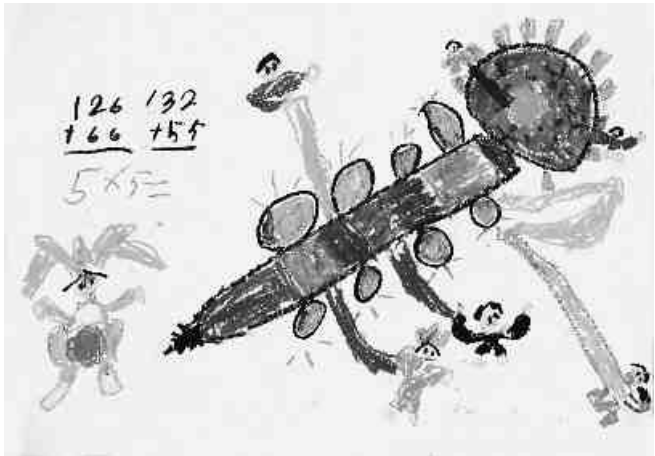
ぼくは かばった

川西市加茂小学校 二年
山さき たける

いもうとがしかられた
ないてしまった
ぼくはかばった
そしてあちゃんを
しかった

◆選者のことば

「ある日」の感動が、直截にあるいは凝縮されてここに表現されている。子どもの書く詩の原点がここにある。(田中定幸・綴方理論研究会)



「あつたらいいな、らくちんえんぴつ」
淡路市多賀小学校 二年 日外 裕人



「音楽室」
淡路市多賀小学校 四年 近藤 結菜

えだ豆ぬけたぞ うれしいぞ

太子町石海小学校 三年
暮部 麟太郎

両手でぐつとえだ豆を引っばった
なかなかぬけない
かた手で体をたおすように
引っばった
でもだめだ
「よいよ。」
つな引きのかけ声をかけた
グゴゴとぬけた
とても力強い根がはっている
力だけではぬけないえだ豆
心と力と目線をえだ豆に
合わせてぬいたのだ

えだ豆がぬけた
ぬこうとしたから
ぬけたのか
ぬけるとしんじて
ぬいたのだ

「やったあ。」
その時言葉になったのは
それだけだ



今回初めて入選作品が会場で展示された。



「エピソード・オブ・ランドセル〜
ランドセルとの別れ」
佐用町上月小学校 六年 清水 楓太

命のありがたさ

たつの市半田小学校
新見 珠良 五年

人間には命がある
魚にも命がある
わたしたちはその命をいただいている
その命をもらっているのに
残す人がいる
それを捨ててしまう人がいる
魚がかわいそうだ

家庭科の時間
わたしは魚をさばいた
血がいつい出できた
内ぞうを取り出し
その後、三枚におろす
三枚におろして身がまだあるのに
みんな捨ててしまっ
とても とても もったいない
魚の心がわかった
「なんで私のこと、捨てるの。」
「捨てられたくない。」
「もつともつと生きたい。」
「もつともつとみんなとくらしたい。」
じわっと
ぐっと

わたしの心にしみこんできた

わたしは前まで魚が大きらいだった
でも 魚の気持ちかわかって
食べようと思った

魚さん、命をくれて ありがとう
命のありがたさ
今のわたしには、わかる
せつかつもらった命
むだにしないよ

紫紺の翅

神戸市歌敷山中学校 二年
鈴木 那美

夏山に入っていく
弟が先に 私は後から
山一杯の蝉時雨

どこからか 紫紺の翅
ふうわり ふふうわり ひらり
ふうわり ふふうわり ひらひら ぴたり

七寸先の葉の上
ゆっくりと翅を上下させ
息づいている
あふれ出る汗もぬぐわず
じっと見つめる私たち
翅が止まる 風が止まる

「お風だよ」
遠くから祖母の呼ぶ声
我に返れば
ひらり 翅は空へ
山一杯の蝉時雨

◆選者のことば
中学生の詩は、観念的になりがちだが、自然現象を内面化したこの作品の、すぐれた描写力に感心した。(渡辺信雄・詩人)



「わたしの友」
多可町中町中学校 二年 竹内 志歩